

「捨てる派の情報整理術」

高林 哲

satoru@namazu.org

捨てる派？ 捨てない派？

情報整理術は興味の尽きないトピックです。誰もが何かしらのこだわりを持っているため、ひとたび議論が始まると、自分はこうやってる、俺も昔はそうやっていたが駄目だった、などと始まって收拾がつかなくなります。これはちょうど誰もがうまいラーメン屋について一家言を持っているのと似ています。

私の観察によると、ある種の人たちが情報整理術について議論を始めると永遠に平行線で終わるようです。それは「捨てる派」と「捨てない派」です。

捨てる派によれば、「物理的なものにしる電子的なものにしる、いらぬものはどんどん捨ててしまえばよろしい。不要なものがたくさんあるから必要なものが見つかりにくくなるのだ。第一、ものが少ない方が気分がすっきりする。昔から、墓場まで情報は持っていけないと言われていたのではないか」ということになります。

一方、捨てない派によれば「必要か不要か簡単に見分けられたら苦労はしない。間違えて捨ててしまったら後で取り返しがつかなくなる。それに、物理的なものはともかく、電子的な情報ならかさばらないし、検索ができるんだから捨てる必要はないじゃないか。人間、蓄積が大事だよ」ということになります。

両者の言い分はどちらも一理ありますが、筆者はどちらかといえば捨てる派の人間です。捨てる派と捨てない派についての議論は昔から盛んに行われており、それらと重なる部分が多いと思いますが、本稿では私がこれまでに気づいた点について述べてみたいと思います。



後から必要になるかもしれない症候群

筆者は以前に、捨てない派の人が研究室に大量に溜め込んでいたPCやハードディスクの箱を処分しようとして、大いに不評を買ったことがあります。いわく「修理に出すときに必要になるかもしれないじゃないか」とのことでした。このようなありがちな取り越し苦労のことを、筆者は「後から必要になるかもしれない症候群」と呼んでいます。

この例の場合、捨てる派は次のように考えます。

巨大な箱を保管するのはスペースを取られる上、美観を損ねる（保有コスト）
修理の時に使えるかもしれない（保有メリット）
しかし、その可能性は低い（保有メリットの割引）
修理が必要になったらPC用の宅配サービスを利用すればいい（妥当な代替案）
if 保有コスト > 保有メリット then 捨てる end

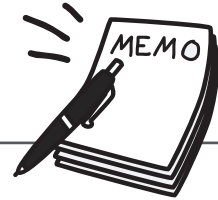
後から必要になるかもしれないということは考慮に入れますが、その可能性が低いことと妥当な代替案があることを考えれば、捨てるべし、とゴーサインが出ます。

電子的な情報も捨てる

PCの箱の場合は物理的にかさばるので、保有コストがかかることは明らかですが、電子的な情報の場合はどうでしょうか。

現在のハードディスクは数百ギガバイトが当たり前ですから、たかだか数十キロバイトのテキストを保存しておくコストは取るに足らないように思えます。しかし、塵も積もれば山となり、たとえばメールは放っておくと膨大な量になります。データが大量になると、スペースを食うだけでなく、バックアップなどの際にコピーや転送に時間がかかるのも厄介です。

一方、文書などを適切なフォルダなどに整理するのは



大変手間のかかる作業です。キーワードなどによる検索で容易に文書にアクセスできれば、整理などほとんどいらないという考え方もありますが、関連するものを何らかの形でひとまとめにしたい（フォルダに入れる、あるいはラベルやタグをつけるなど）、という要求は残るため、整理や分類が完全に不要になることはなさそうです。

このように、電子的な情報の場合でも保有コストはゼロではありません。ゼロではない以上、保有するのが割に合わないと思なしたものはどんどん捨てていくのが捨てる派の方針です。

捨てるもの、捨てないもの

なぜ情報を整理するかといえば、後から情報を利用しやすくするためです。当然、後から利用しない情報はとっておいても仕方ありません。

何が不要か見分けるのは容易ではありませんが、1つ便利な目安に「古さ」があります。古いものすべてが不要というわけではないものの、時間の経過とともに不要になる情報は多くあります。筆者の場合は、2、3年以上経過した古いメールは削除するようにしています。

一方、捨てないものとしては、自分が書いた論文や雑誌記事などがあります。これらは情報としての価値

を失っても「苦労して書いた」という思い入れがあるため、削除することはなさそうです。また、数年からChangeLogという形式でつけている自分用の日誌も削除しない情報のひとつです¹⁾。

身軽でいこう

捨てる派の人間の行動パターンには、保有メリットより保有コストの方が高ければ捨てる、という合理的な面だけでなく、捨てるのが好きだから捨てる、という趣味的な面も多分にあります。冒頭の捨てる派の言い分であれば「第一、ものが少ない方が気分がすっきりする」です。

筆者の知人に、2、3年に1度の引っ越しのたびに所有している書籍を厳選して、特製の収納ケース1箱に収まる分だけしか残さないという人がいます。筆者はそこまでは徹底していませんが、氏のような身軽さには憧れるものがあります。本稿が、捨てる派の行動パターンを理解する、あるいは必要な空き箱を処分する一助となれば幸いです。

参考文献

- 1) 高林 哲：横着プログラミング (1) Unixのメモ技術, UNIX MAGAZINE, Vol.17, No.1, pp.117-125 (2002).
<http://namazu.org/~satoru/unimag/1/>

(平成18年1月6日受付)

